

# 市長への生き生きメール

7月31日までお送りください。

問 総務課広報広聴係 ☎22-1331

## 市長への生き生きメール

市では、市民の皆さんから市政へのご意見やご提案をお寄せいただき、市長が直接目を通した上で、これからの市政に生(活)かしたいと考えています。ご意見ご提案をお寄せいただくときには、裏面にご記入の上、切り取り線の通りに切り取り、のり付けして郵送してください。

また、ファクシミリでも受け付けますので、裏面にご記入の上、そのまま送信してください。

氏名 住所

989 0290

料金受取人払  
白石支店承認  
131

差出有効期間  
平成23年7月31日まで

(郵便切手はいりません)

白石市役所  
白石市長 風間 康静 行  
白石市大手町1番1号

FAX 24-4861



01~05 登別市・海老名市の両市から白石市に空路で届けられた支援物資 06 海老名市芝生公園で行われた白石復興祈願植樹  
07 固い握手を交わす左から内野海老名市長、小笠原登別市長、風間市長 08 トライアングル交流宣言に署名し推進を宣言

### 人と人の結び付きがすべてを結ぶ

4月29日、姉妹都市を結んでいる北海道登別市と神奈川県海老名市、白石市の3市が、「家族、姉妹、兄弟、友達」のような関係を築き、さまざまな分野での交流や相互支援関係を強化するため海老名市役所で「トライアングル交流」の推進を宣言する調印式を行いました。

調印式では、海老名市の内野優市長が「3月11日の大震災後、白石市からの要請により、海老名市、登別市の両市で物資を白石市に送ることにしましたが、陸路で運ぶことができず、厚木基地からヘリコプターで物資を届けました。平成22年4月に3市で結んだ災害協定は、いざという時のために結んだもので、災害はないにこしたことはありませんが、今回は、こういった仲間づくりが功を奏し、三市の友好がさらに深まりました。復興には元気が必要です。調印式をスタートに、白石、東日本に海老名市の元気を届けていきたいと思います」とあいさつ。

続けて、風間市長が「登別市、海老名市の皆さまの温かいご援助、ご支援に心から感謝します。人と人との結び付きがすべてを結びます。人と人との愛がすべてを助けてくれます。結び付きや愛が助けになることを今回の震災で身をもって知りました。経済を動かすためにも3市が交流を深めていきたいと思います」とあいさつ。登別市の小笠原春一市長が「大震災後、登別市から白石市に物資を送ることができなかったため、海老名市から

送っていただきました。3市の交流は、全国的にみても例がないものです。2本足より3本足のこの交流は、新しい交流の模範になるものだと思います。都市間の安心安全、そして、住民の皆さんの生命と財産を守るためにも3市が交流を深めていきたいと思います」とあいさつしました。

調印式の後には、登別市、海老名市の両市から1,400万円、さらに登別・白石姉妹都市間交流推進協議会(登別市)、海老名市都市間交流協会(海老名市)から復興支援金が風間市長に手渡され、風間市長は「苦しいところを助けていただき感謝の言葉しかありません。必ず復興させます」と復興を誓いました。

白石市と登別市は昭和58年10月に、白石市と海老名市は平成6年10月に姉妹都市提携を行い、これまでさまざまな分野において交流を深めてきました。

平成22年4月には3市による「災害援助協定」を締結。同年11月には「トライアングル交流宣言」に向けた3市による合意が行われ、大震災では協定が生かされ、支援が行われました。海老名市芝生広場には、白石市の木「ブナ」と、「困難に耐える」という花言葉の「スモモ」の木が白石の復興を祈願して植樹されました。

本市は、登別市、海老名市からの支援に感謝するとともに、3市が「家族、姉妹、兄弟、友達」のような関係を築き、歩き続けるため「トライアングル交流」をこれからも推進していきます。